

<メディアウオッチ>

「開店休業」の外相会見 記者側の申し入れで進展したが…

上出 義樹

11月2日の当欄で、「開店休業」のタイトルを付け取り上げた玄葉光一郎外相の記者会見休止問題に進展があったので報告する。

閣議のある火、金の週2回、筆者を含めフリーや雑誌の記者らも参加できる外務大臣の「オープン」会見が10月4日を最後に8回も続けて中止か、国会内でのぶら下がり会見となり、国会記者証が発行されないフリー記者らが事実上締め出されていたが、11月9日以降、毎週水曜の午後に外務省で「オープン」会見が開かれることになった。

水曜に「オープン」会見 「週2回」からは後退

フリー記者らの抗議のほか、大手メディアが加入する「霞クラブ」（外務省記者クラブ）も会見の正常化を申し入れ、玄葉外相が会見運営の新方式を提案してきたものだが、2年前の政権交代直後に当時の岡田克也外相の強い意向で実現し、火曜と金曜午後に外務省会見場で開かれてきた「オープン会見」は今後、国会の会期中は国会内での午前中のぶら下がり会見となり、国会記者証を持たないフリー記者らは参加しにくくなる。

その代わりに開かれる水曜の「オープン」会見だが、玄葉外相さえその気になれば、国会休会中は、逆に週3回に記者会見が増える可能性もあるわけだ。

野田内閣全体に「説明責任」軽視の傾向

ただ、岡田外相時代は毎回1時間かけていた「オープン」会見が、大臣が変わるたびに次第に骨抜きとなり、十数分で切り上げることもしばしばあった。

「情報公開」の大切さをアピールしていた民主党の初心に比べ、玄葉外相ばかりでなく野田内閣全体の姿勢として、記者会見や国民への「説明責任」を軽視する傾向が強まっている点を、あらためて指摘しておかなければならない。

（かみで・よしき） 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院（新聞学専攻）在学中。